

## 教育を考えるきっかけ

### 1. 教育を考える一言

私は高等学校理科教員を目指しています。今までの生活の中で様々な人との出会いがあり、多くの言葉や考えに触れて自らの思想を組み立ててきました。特に教員を目指すにあたって影響を受けた方々の言葉は、今の私の教育に関する思想に大きな影響を与えてくれました。

### 2. 背景

徳島県の片田舎で育ち、高校時代は弓道（部活動）に明け暮れる日々を送りました。一生弓道を続けるつもりであったので、将来は国体などに出場しつつ仕事をしたいと思っていました。その中で何かぴったりの職業はないかと様々な人に意見を聞いていたところ、部活動の顧問が教員はどうかと言いました。遠征先などで出会った選手の顔と名前をよく覚えており、また、部活での同輩や後輩への指導が的確であることなどが教員を勧めた理由となったようです。確かに、私は部活関係に限らず人の顔と名前を覚えることが得意です。部活の指導には自信があり、部活のみならず得意科目を誰かに教えることにも自信がありました。加えて、教育について興味はありました。また、弓道では教員を対象にした試合などが多くあり、有名な選手には教員が多いイメージがありました。以上のことから私は教員を志望するようになり、教育で有名であり部活動も盛んな筑波大学へ進学することになりました。

### 3. 考察

大学に入学し、教職に関する授業はもちろんのことそれ以外の授業を受けていく中で1人の先生に出会いました。現在所属している研究室の先生ですが、先生の授業は大変面白く、気づかされるが多くありました。ある日、先生と教育について話す機会があったので、先生の授業はなぜ面白いのかを伺ったことがあります。先生は、「教科書に書かれている1文の重さを伝えているつもりだ」と語りました。1文の重さとは、今では誰でも知っていて常識となっている事象を表すに至った長い背景や歴史のことです。1文の重さを伝えるためにはその背景や歴史を詳しく知る必要があります、研究者の苦労と血の滲むような努力があって成り立っていることを知らなければなりません。先生はメンデルを例に話して下さいました。メンデルはかの有名な「メンデルの法則(優性の法則・分離の法則・独立の法則)」を発見しました。広く知られている話ではありますが、メンデルが法則を発見するまでの研究は15年間にも及びましたが、当時は研究成果が認められず没後10年以上経ってから再発見され評価されました。このメンデルの話のみならず、様々な1文の重みを知ることで面白く有意義な授業ができるはずだと先生は言いました。確かにその通りだと思いました。

様々な人と出会ってきたおかげで、私には将来なりたい教員像が浮かんできています。これから先も勉強していく中で、また、教員になってから出会う人々から多くの言葉と考えを頂き、自らの思想を組み立てて行きたいと思います。